

長善寺 春の永代経法要のご案内

この冬は一度も雪下ろしをせずには終わりました。地球温暖化のことは心配ですが、私たちにあって有難い冬でした。

今まであちこちのサロンでゲームや体操をしてきました。ところがこの頃、法話をしてほしいという希望が増えてきました。長い人生を体験してきて甘いも酸いも知っている方たちがなぜ法話をしてほしいのか不思議でしたが、実際にやってお話を聞いてみると、自分の人生を振り返って、その意味は何だったんだらうと思うことが多くなつたと言われるのです。長いと思っていたけど過ぎてみればあつという間。この私の人生は何だったのだろうか。

振り返ってみると、人生の中で様々な贈り物を頂いてきたことを感じます。先だった人たちから大切な贈り物を確かにいただいた。有難いことだったと心から感じます。辛かったり、苦しかったり、楽しかったり、いろいろなきことがあつたけど、ありがたかつたなあ。

お念仏は仏様から私に届けられた贈り物です。このどうしようもない煩惱まみれの私を最後に仏様にくれるのです。これを嫌と言っても仏様は叱りません。ありがたく受け取ってもお礼を言えと言われません。

「極悪深重の衆生は 他の方便さらになし ひとへに 弥陀を称してぞ 浄土にうまるとのべたまふ」



菜の花や
月は西山
日は東

※ 拙寺永代経を左記の如く行います。
亡き方の法名を長善寺にあります法名軸に記載し、長善寺が続く限り読経させていただくのが永代経法要であります。

一、 日時 令和六年 四月 二十日 (土)

午後一時より三時半まで 途中休憩お茶など

一、 お勤め 自坊にて

正信偈念仏・和讃

法話(仏様からの贈り物、わかつちやいるけどやめられない)

永代経加入のご先祖